

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400013		
法人名	社会福祉法人 双葉会		
事業所名	高齢者グループホーム双壽園		
所在地	徳島県阿南市見能林町南林258-5		
自己評価作成日	令和元年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和元年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室戸阿南皇帝公園の中にあり自然環境に恵まれている。施設は海に近い立地であるが、海拔8mの場所にあり、想定される津波水位は3~5mで、阿南市防災マップにおいて避難対象地区にはなっていない。海辺の散歩に適しており、地域の人との交流にも適している。施設の中での生活は、利用者と職員が共に笑顔の絶えない生活を送れるように努めている。又利用者の生活を活性化す為、音楽やレクリエーションを積極的に取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海水浴場や松林が広がる高台に位置している。近隣に、同一法人の運営する他サービス事業所が多数あり、日常的な利用者同士の交流の機会を設けたり、緊急時に看護師からの支援を受けたりするなど、連携体制を構築している。地域とのかかわりを大切に考え、認知症について周知・理解を図る“ほっこりカフェ”を実施したり、ボランティアや近隣の保育園児などを積極的に受け入れたりして、地域との交流に取り組んでいる。ピアノ演奏等の音楽療法を取り入れるなど、利用者が安心して過ごすことができるよう工夫している。協力医療機関とも連携し、定期的な往診や緊急時の対応体制を整えるなどして、利用者や家族等の安心・安全につなげている。また、福祉避難所としての指定を受けて、一時避難所としての機能を持つとともに、避難訓練の際に地元消防団や地域住民の協力を得て実施するなど、地域の災害拠点として取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共にする為、職員会や、勉強会、申し送り時等に理念について話し合い、振り返っている。	事業所では、独自の理念を掲げている。職員会や勉強会などで、職員間での共有化を図っている。職員は、理念に基づいて、利用者の話に耳を傾け、共感する姿勢をもって支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、防災訓練では、地域住民に参加を呼び掛けている。また併設された施設での、ボランティア、保育所や学校と交流を図っている。地域の文化祭へも出展し、見学に行っている。	事業所では、ボランティア等で、学生や保育園児などを受け入れた際に、積極的に交流を図っている。利用者とともに、地域の文化祭にも参加している。また、地域住民が、手作りの品を持って来訪することもあるなど、事業所自体が地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として開催しているほっこりカフェ(認知症カフェ)を企画し、当事業所からも職員が参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、状況報告や取組について報告、意見交換しサービスの質の向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者家族等や地域住民、市の職員などの出席を得ている。会議では、事業所の現況や事業計画、行事内容などを報告し、サービスの質の向上を図るよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、報告、意見交換にて相談、助言を頂いている。また提出書類等についても直接、または電話にて相談等を行い協力関係を築いている。	日ごろから、管理者は、市担当者と連絡をとり、事業所の運営や利用者の暮らしぶり、具体的な取り組みなどについて相談している。相談内容に応じて、助言やアドバイスを受けるなど、課題解決に向けて協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや身体拘束のチェックシートを用いて具体的な行為11項目について話し合い、理解を深めている。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを整備している。勉強会や研修会を開催したり、チェックシートを活用したりして、職員間の意識の共有化を図っている。定期的に、ヒヤリハット報告を事業所内で行うことで、身体拘束にあたる行為を未然に防ぐよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを用いて、全職員が虐待防止関連法について学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通して職員会、勉強会で勉強している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に基づき説明。又改定により見直した際にも十分な説明をし、理解を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見、要望を聞くように努め、日常を報告し意見を頂き、質の向上と信頼関係構築に努めている。	職員は、日ごろの支援の中で、利用者の意向を把握するよう努めている。家族等には、面会時や電話の際に、意見や要望を聞き取っている。聞き取った意見等をもとに、職員間で話しあい、運営面に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや勉強会を通して、意見、提案し話し合う場を設けている。また個別に面接を行い、意見を聞くように努めている。	日ごろから、管理者は、職員が意見や提案を言いやすくなるよう、コミュニケーションを大切にしている。聞き取った意見等をもとに、職員の資格取得を積極的に推奨するなど、運営面に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の業務内容や努力、成果を把握する事で、適切な評価を行い、やりがいのある職場環境作りに取り組んでいる。資格取得に関しても法人内勉強会や外部研修の参加を行いバックアップに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員の知識や技術が向上するよう研修会や会議を開催しており、外部研修へも受講できるように支援を行っている。参加者は伝達を行い、事業所全体のスキルアップにつながる様努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿南市の実地する地域密着型サービス事業所研修会で同業者と交流情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。又当法人の他事業所とも交流を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時にご家族と一緒によく話を聞くようにし、お互いの理解を深めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時等、十分な話し合いにより、ご家族の気持ちや求められていることを受け止めるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で、生活状況を把握しながら本人の要望、不安に思っている事を傾聴する事で思いを受け止め安心感を与えられるよう又早い段階で信頼関係が構築できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事、出来ないことを把握し、出来る事には役割を持ってもらう様にして、共に支え合う関係を築くようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や思いを家族に報告し連携を密にし、本人と家族の絆を大切にしている。介護についても家族に協力を頂き、共に支えて行く関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方にも協力を頂き、交友関係を把握することに努め、いつでも施設に来訪して頂ける様に支援している。	事業所では、利用者の家族等や同一法人の運営する併設の他サービス事業所の友人、知人の来訪を快く受け入れている。利用者とともに地域公民館に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもみんな家族」をモットーにしている。うまく他者とコミュニケーションが取れない方には、職員が間に入り孤立しないように努めている。又状況に応じて座席の位置を変えている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの暮らしが継続出来るように、必要に応じて情報提供を行っている。また、本人や家族にはいつでも相談に応じる事を伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や意向を本人、家族からアセスメントにより把握し、本人が望む暮らしが出来るように努めている。又意向が伝えきれない方においては、表情やしぐさから汲み取るようにしている。	職員は、日ごろの支援の中で、利用者一人ひとりの言葉やしぐさ、表情などから思いや意向の把握に努めている。把握した意向等について、職員間で共有化を図り、本人本位の支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前任のケアマネージャー、知人から協力頂き、情報を把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議、職員会議、申し送りで一人ひとりの状態や変化等について話し合い、共有、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し、ケア会議にて関係者で話し合っている。また場合によっては主治医に相談し意見を頂き介護計画に反映している。	事業所では、3か月ごとに、介護計画書を作成している。利用者がその人らしく生活できるよう、本人や家族等、職員などの意見も聞き取っている。利用者の心身の状況の変化に応じて、現状に即した計画となるよう、随時、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録にその日の身体状況、様子、気づき等を記入し、職員間で情報を共有し、ケア会議、申し送りで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等、家族の状況に応じて協力出来る様に取り組んでいる。また、その人の望むこと(趣味など)に、できるだけ対応出来る様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターの職員、地域住民の協力を得ながら連携を図り利用者が安心、安全に在宅生活を継続出来る様に支援を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時本人、家族の希望等相談し主治医を決めている。主治医には月2回の往診と必要に応じて血液検査、健康管理と助言を頂いている。	事業所では、本人や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。月2回、協力医療機関の往診があり、利用者の健康管理にともなうアドバイスを受けている。専門医療機関を受診する際は、家族の協力を得て支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を中心に介護職員も含め、ご利用者の日々の状態の変化に気を配り、変化が見られた場合は報告、相談を行い早期に対応出来る様にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近年入院された方はいないが、必要に応じて情報提供を行い、連携を図り退院後の受け入れについても、スムーズに在宅生活に戻ることが出来るように支援する体制である。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、早い段階から重症化に至った場合の対応について事業所で出来る事、ご家族がどこまで協力出来るか等、検討を行い職員間で話し合い、折々にご家族に確認を行いながらお互いが納得いくケアが出来るよう支援を行っている。	入所時に、事業所では、重度化等に向けた支援のあり方について、本人や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の容態が急変した場合には、かかりつけ医や同一法人が運営する他サービス事業所の看護師から支援を受けることができるよう、支援体制を整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応法についてマニュアルを作成し、勉強会や、ミーティングを通して全職員が周知徹底出来るようにしている。また利用者の急変時等を想定し、かかりつけ医と相談して連携を図っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に地域住民の参加と協力を得て、避難訓練を実地しており、協力して頂ける事で地域住民との関係作りも構築出来ている。消火器や設備点検、非常時の備蓄品等も点検している。	事業所では、年2回、避難訓練を実施している。地元消防署や地域住民からの参加・協力を得て、避難経路の確認などに取り組んでいる。定期的に、消化器や設備等の点検もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のミーティングや勉強会でプライバシーや尊厳について話し合っており、理念である「思いやりの心を持って人のために尽くそう」を心がけた支援を行っている。	事業所では、定期的に、プライバシーなどに関する勉強会を開催し、全職員の意識の共有化を図っている。職員は、学習した内容に基づいて、利用者一人ひとりを尊重しつつ、プライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを大切に、いろんな場面で選択肢の提案を行い、自己決定が出来る様に働きかけ、意思表示が困難な方には提案した事への表情などから思いを汲み取る様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮しながら、個々のペースを大切に、無理強いない支援を行っている。閉じこもりがちの方には、出てきたくなる様な環境作り等工夫し、生活に楽しみが持てるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の遺志により、服装等を選んで頂き、職員は気候に合っているかアドバイスをしている。自己決定できない方については、提案を行い相談し決めている。美容講習への参加も支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備では、盛り付けや食事の片づけ等を手伝ってもらい、おやつ作りでも、出来ることに参加してもらっている。	事業所では、利用者のできることを大切に捉え、一緒に食事の盛り付けや配膳をしたり、おやつ作りをしたりして、食事が楽しみなものとなるよう支援している。定期的に、嗜好調査を実施して、行事食や誕生日食などに反映している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、体調に応じて食事形態や食事量、食事時間を調整している。また食事量、水分量をチェックし毎日の栄養、水分の確保を支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯については毎夕食後、洗浄剤で除菌を行っている。個々の状態により、声かけ、一部介助、全介助にて清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導や介助を行っている。また状態に応じPTトイレを使用し自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なタイミングで声かけを行っている。個別の状況に応じて、ポータブルトイレを使用するなど、自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行運動などにより、体を動かす取り組みをしている。飲食物でも個々に合った形状やトロミの工夫をしている。また水分確保に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	順番、温度調節、入浴時間など、出来るだけ希望に添った入浴形態を支援している。	事業所では、週3回は入浴できるよう支援している。毎日、利用者の入浴の希望を確認したり、心身の状況に応じて、清拭や足湯を行ったりするなど、一人ひとりの思いにそった入浴支援に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや記録に一人ひとりの生活習慣や、その日の状態を把握し、様子を見て休息を促したり、本人の希望に応じてゆっくり休んで頂ける様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会で看護師から利用者一人ひとりの疾病と処方薬について説明を受け、全職員が理解するように努めている。また変化のある度、口頭だけでなく文書としても伝え理解に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物の片付け、食事支度、おやつ作り、生け花、野菜作り、花植え、水やり、お茶等生活歴や趣味を活かした役割分担をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に基づき、園庭へ出たり、散歩、ドライブを楽しんで頂いている。また家族と帰宅し買い物などを楽しまれている。	事業所では、利用者の希望を聞き取り、敷地内を散歩したり、近隣の神社へ出かけたりしている。季節ごとに、桜やコスモスを見に行くなどの外出支援にも取り組んでいる。家族の協力を得て、買い物や外食に出かけることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に理解の元、希望者のみ小額のお金を所持して頂いている。また移動スーパーを利用し、おやつを選んで頂き、満足感や楽しみを感じて頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族の希望に応じて電話や手紙のやり取りは自由に出来る事を伝えている。また帰宅願望による不穏時には電話で話をしてもらう等協力を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替え、整理整頓を心がけ、季節の草花を飾っている。寒い冬にはホットカーペットを入れ、足下が冷えないようにしている。	共用空間は日当たりがよく、快適に過ごすことができる。床に絨毯を張るなど、安全面にも配慮している。壁面には、利用者と職員で作った作品や季節行事の写真を飾り、季節を感じるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを2か所、廊下には長椅子を2か所置き、一人でゆっくり過ごしたり、気の合う利用者同士で会話を楽める様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談し家具など馴染みのある物を持って来ていただく様に伝えている。本人手作りの品や、家族様からのプレゼント等を飾ったり、好きな音楽を聴ける様にしている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や電化製品等を持ち込んでもらうなどして、居心地よく過ごすことができるようにしている。家族からの贈り物や本人の作った作品も飾り、その人らしく暮らすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中が全てバリアフリーである。トイレや自室がわかりやすい様に利用者の目線で表札を表示している。		